

カテーテル関連血流感染症診断におけるバイオフィーム検出の有用性 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2021年1月6日 ～ 2022年12月31日

〔研究課題〕

カテーテル関連血流感染症診断におけるバイオフィーム検出の有用性

〔研究目的〕

カテーテル関連血流感染症の診断は、カテーテル先端培養と末梢血培養から同一の菌が検出されることで診断できますが、カテーテル先端培養は偽陽性や偽陰性が生じることがあります。カテーテルに菌がいるか肉眼的に検出することが CRBSI の診断に役立つか検討します。

〔研究意義〕

カテーテル関連血流感染症を正確に診断し、治療に役立てます。

〔対象・研究方法〕

2019年1月1日から2020年12月31日までの2年間で、当院の検査室に中心静脈カテーテルが提出された患者様について、カテーテル内にバイオフィームや菌体が検出されるか、カテーテルおよび血液の培養から同一の菌体が検出されたかを調査します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院第四内科

〔個人情報の取り扱い〕

匿名化し個人情報を保護します。研究終了後は臨床研究センターにて10年間保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：菊池健太郎（帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科学講座 准教授）

研究分担者：高井敦子（帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科学講座 助手）

住所：川崎市高津区二子 5-1-1 TEL：044-844-3333(代表) [内線 3213]